

母ミツコ 91歳

「おとうさん、もうそっちへ行ってもええかね」

手を合わせ
いつものように
神棚に話しかけ
眠りにつく



神棚の榦の水はなんとか自分で替えるが
部屋の掃除や庭の手入れはもうできなくなった
夫を看取って30年余り
米寿を迎えた一昨年の夏頃から物忘れが多くなり
かかりつけの医院で認知症の始まりと言われた。



「どうしてじゃろうねえ。あれもこれもできんようになって」と
 今までできていたことができなくなったことを悔やむ
 ミツコの一生のすべてがあるこの小さな家とその家がある町
 夫の墓参りもままならなくなり
 兄も弟も義妹もみんな先に逝ってしまった
 もう、畑に出ることもできなくなった



古いはさまざまな関係の喪失
 わが身・生活・社会との関係をうばう
 老いの課題はわが歩みの確認(人生の同一性)



危ないからと火を使うのを止められてもう1年
 もうひとりでは食事も作ることができない
 嫁いだ娘が勤務の傍ら1日おきに寄って泊まり
 2日分の総菜を作つておいてくれる
 今日も娘が作りおいてくれたおかげで、ミツコは一人食事をすませた

ひとのQOD命の終わりをどう括るか



ひとの一日は

さまざま作業のいとなみ

そのいとなみを積みかさね

一人ひとりの生活や人生が

風合いの異なる織物のようにつむがれる

作業をいとなみ 作業がつむぐ

ひと その作業的存在

思わぬ病い

こうやからだの障害は

日々の作業のいとなみの障害となり

生活や人生のつむぎにほころびをつくる

ひとにどうて病いや障害とは

日々の作業のいとなみの障害
生活や人生のつむぎのほころび

失いそなわれた日々のいとなみ
その再びのこうろみが

ほころびを繕い

あらたな人生をつむぎなおす

作業をいとなみ 作業がつむぐ

ひと その作業的存在

ひとは生きるために作業する
作業することで成長し

作業することで不安を軽減し
生活を楽しむために作業する

作業療法の手段は

行住坐臥

ひとが日々行っている生活のいとなみ

人間の一日は、さまざま作業によって成り立っている。
病いや障害は、生活という視点からみれば、原因
が何であれ、生活における作業の障害

作業療法って？

作業の意義



作業療法って？

こころとからだのリハビリテーション

生活行為の向上をマネジメントする仕事

生活を構成するさまざまな行為（作業）を手段に
ひととその生活機能をアセスメントし
生活機能の障害があるもしくは予測される者に
生活に必要な行為ができるよう援助します



生活をよりよい健康な状態に



作業療法というかかわり

特性 対象の状態とニーズに応じて組み替えるシステムプログラム

役割 生活機能評価(心身機能, 活動状態, 生活環境, 他)

生活支援機能(機能障害の軽減, リハビリティ, 生活技能の学習汎化
リカバリー支援, 他)

機能 ことばと作業により脳機能を糺す

具体的な目的行動・体験による自己認識と行動変容, 心身機能の改善

手段 生活行為, 創作表現活動, 身体活動, 他

領域 医療, 保健, 福祉, 教育, 就労, 他

ストレングスモデルに基づき
個々の生活機能を評価し
訓練・指導・環境調整により
具体的な生活行為を通して
生活全体をマネジメントします

作業療法の特性

	種類	介入手段	特性
身体療法	[薬物療法 運動療法]	薬物 運動	{ physical }
精神療法	[精神分析療法 小精神療法 一般精神療法 認知療法 行動療法 (家族療法)]	言語	{ human verbal }
作業療法	[作業 + 言語]		{ non-human non-verbal + verbal physical }

身体療法は症状の軽減, 基本的心身機能の改善

言語を主媒介とする対話型療法は情動の安定と自己認知

作業療法は, 具体的な体験による基本機能の維持改善・社会脳の機能向上

作業療法でもちいる作業

生活維持活動	[身辺処理 生活管理]
仕事活動	職業 学業 家事 育児
遊び・余暇活動	[原初的遊び 余暇 社会的活動]
社会生活関連活動	移動 情報伝達
休養・熟成	消化 精神身体的再生産

作業療法でもちいる作業

生活維持活動	ひとの毎日の生活に必要な「いきる・くらす」という基本的な生活の維持に関するもの
仕事活動	生活を支えるために必要な物を生産する「はたらく・うむ・はたす」という仕事や役割に関するもの
遊び・余暇活動	直接生存に必要ではないが、「あそぶ・つくる・たのしむ」という発達や生活の質としての豊かさに欠かせない余暇に関するもの
社会生活関連活動	生活を構成する活動の基盤となる移動やコミュニケーション、社会資源の利用など「まじわる・つながる・ひろがる」ということに関するもの
休養・熟成	活動で消費したエネルギーを回復し、食べたものや経験したことを消化し心身に収める「やすらぐ・おぎなう・みにつく」とことに関するもの

ひとと作業

ひとは生きるために作業し
作業することで 楽しみ 困難や不安を乗り越える

命を保つ

日常の自立に必要な作業(日常生活行為)

生きる

生きるための作業(採り、育て、料理、食べ、働く)
生き延びるための作業(神頼みのトランス、協働)

うまく生きる

自分の考えや気持ち表し伝える作業

ゆたかに生きる

豊かに生きるための作業(遊ぶ・楽しむ)

作業療法における作業の意義は?

作業をすることではありません

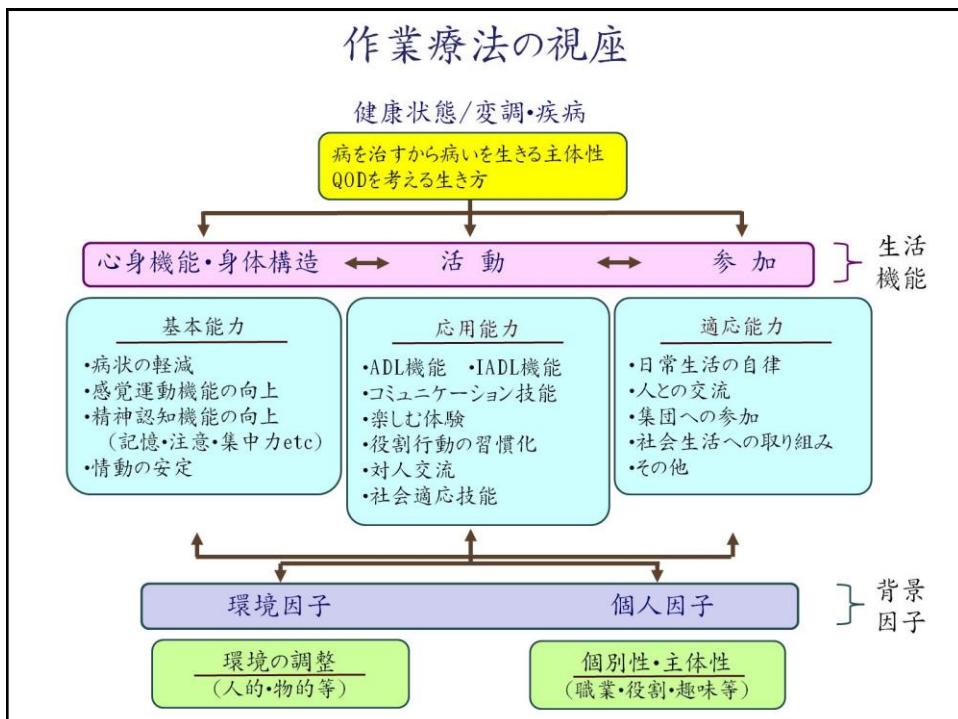
治療者と対象者が作業を介して関わる。そのプロセスを経て得られる対象者の生活行為における満足感や心地よさといった感覚的变化、それこそが作業の意義

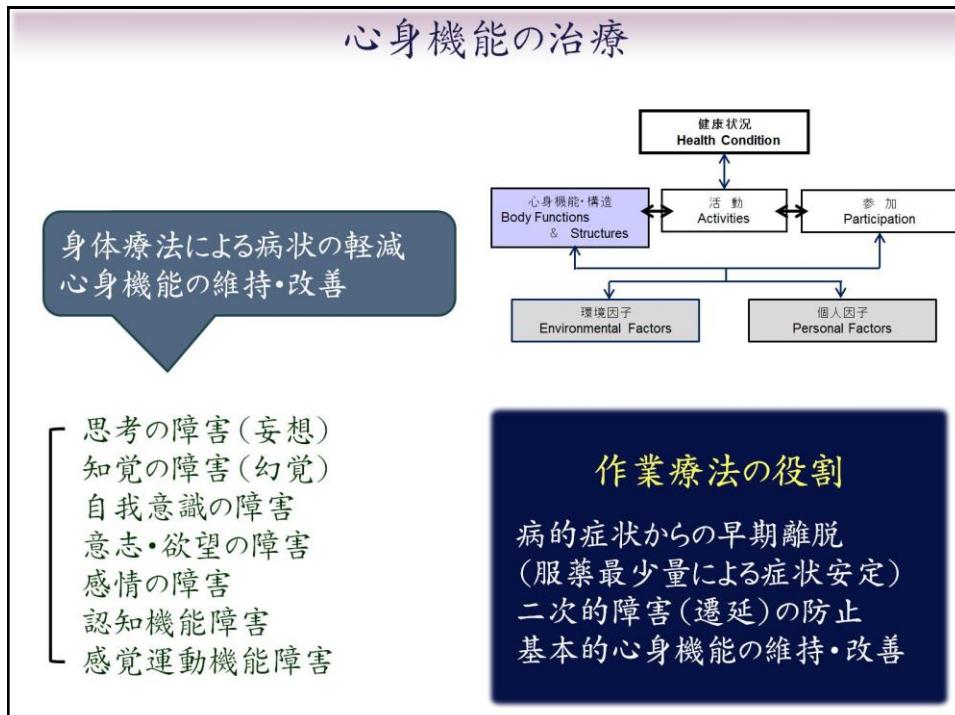
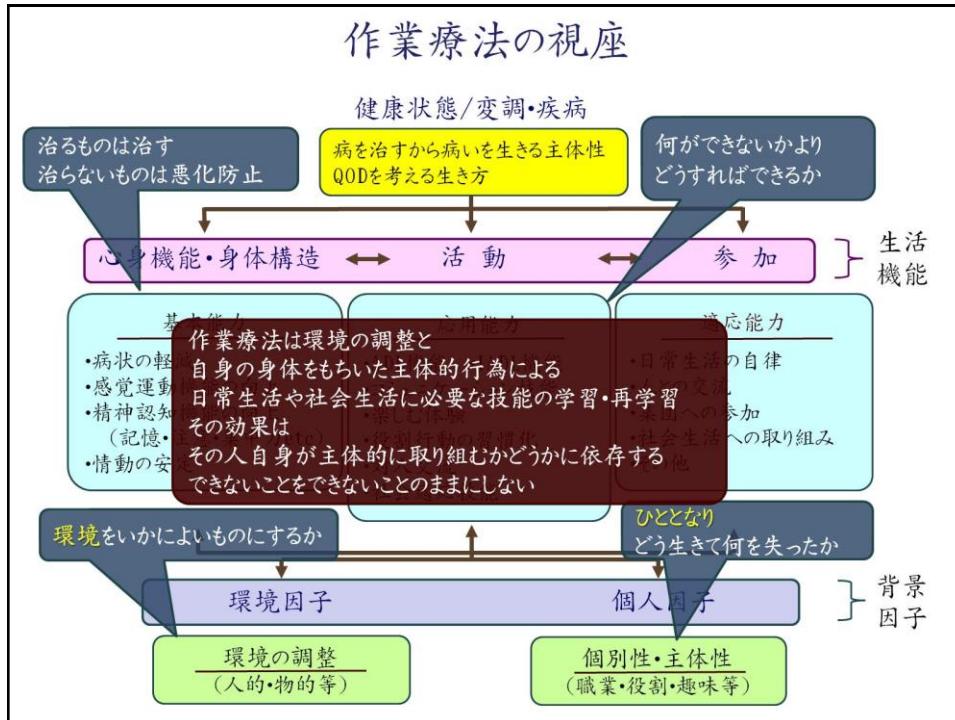
その意義が形になるかかわり

それこそが作業療法における「かかわりのコツ」



作業療法の視座





活動の支援

何ができないかより
どうすればできるか
できないことをできないままにしない

```

graph TD
    HC[健康状況  
Health Condition] <--> A[活動  
Activities]
    A <--> P[参加  
Participation]
    A <--> BFS[心身機能・構造  
Body Functions & Structures]
    A <--> EF[環境因子  
Environmental Factors]
    A <--> PF[個人因子  
Personal Factors]
    BFS <--> P
    BFS <--> EF
    BFS <--> PF
  
```

生活維持活動 [ADLの障害
IADLの障害]

- コミュニケーション障害
- 対人関係技能障害
- 作業遂行技能障害
- 社会資源の利用制限
- その他の活動の制限

作業療法の役割

- 生活行為の再体験
- 生活技能習得
- 作業を介した認知行動修正

参加の支援

日常生活・社会生活への
関与に対する支援

```

graph TD
    HC[健康状況  
Health Condition] <--> A[活動  
Activities]
    A <--> P[参加  
Participation]
    A <--> BFS[心身機能・構造  
Body Functions & Structures]
    A <--> EF[環境因子  
Environmental Factors]
    A <--> PF[個人因子  
Personal Factors]
    BFS <--> P
    BFS <--> EF
    BFS <--> PF
  
```

家庭生活
コミュニティライフ
市民生活
社会生活
就労・復職
修学・復学
その他社会活動

作業療法の役割

- セルフコントロールの支援
- 習得技能の生活への汎化
- リカバリー支援

作業療法の視座

ストレングスモデル	できないことよりできること
リカバリー	病いを生きる 病いも生きる
QOD	人生の締めぐり
生活行為の質	作業を楽しむ
作業とことば	ことばを生かす作業 作業を生かすことば
作業と脳・身体	ひとは身体としてある
知覚のカテゴリー化	ことばで括る

ストレングスモデル

Weakness model

disease
impairment
disability
handicap

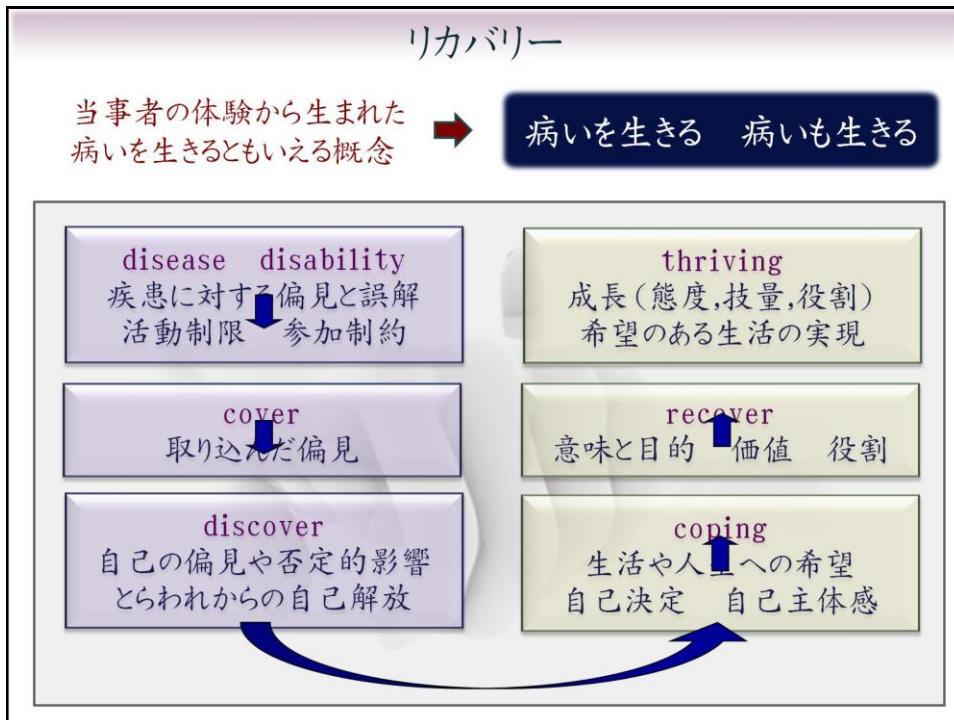
治療 訓練
代理 収容

Strength model

ability
capability
Welfare

工夫 自助
公助 支援

失ったものを追い求めずに
今あるものを活かす
あれもだめ これもできない から
こうしてもいい 何とかなる
やってみよう



楽しむ作業？

楽しい作業ではなく
楽しむ作業
ここでボタンをかけ間違えると

生活行為(日々の作業)の質を高める



必要なのは作業することを楽しくすること
日々の作業(生活行為)が楽しくできること

作業を楽しむ 作業することを楽しくとは？

もちいる作業は
食事、入浴、整容、散歩、買い物、交流など
日常生活に関するものをまず
そして仕事、余暇など
生活を豊かにする作業へ



作業をもちいるには
まず作業療法の機能を知り
作業をすることが意味ある体験として残る関わり
作業を生かすことばとことばを生かす作業が必要

作業療法の効果

対象者が主体的に取り組み、試み、その人なりの生活を見いだすことができるよう、具体的に作業体験の場を提供し、共有体験を通して援助

客観的な効果

心身機能の維持・回復
活動の制限の改善・解消
参加の制約の調整・解消

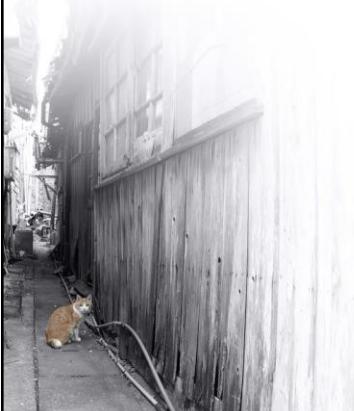
主観的な効果

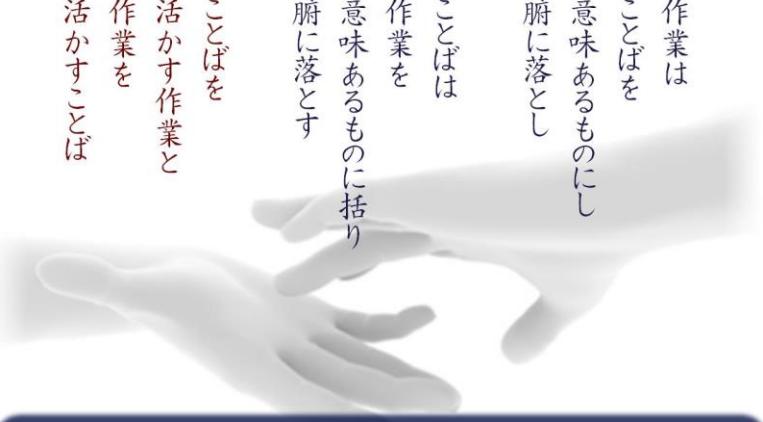
安心感 確からしさ
リカバリー感 生きる望み
共生者的心身の負担軽減

効果には対象者自身の
取り組み方が大きく影響

29

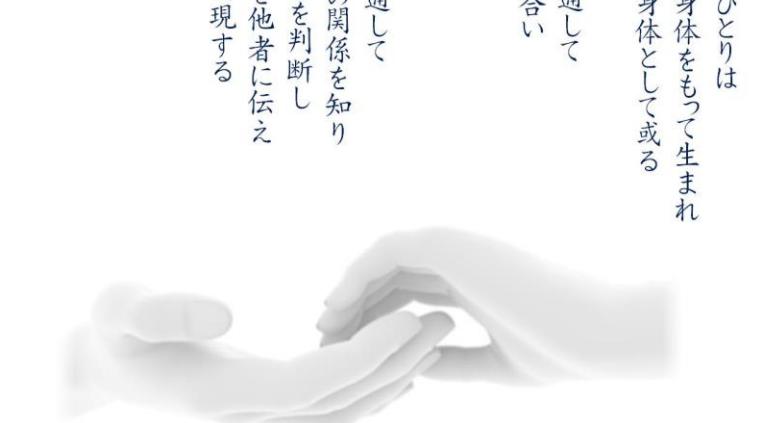
作業療法の治療機序



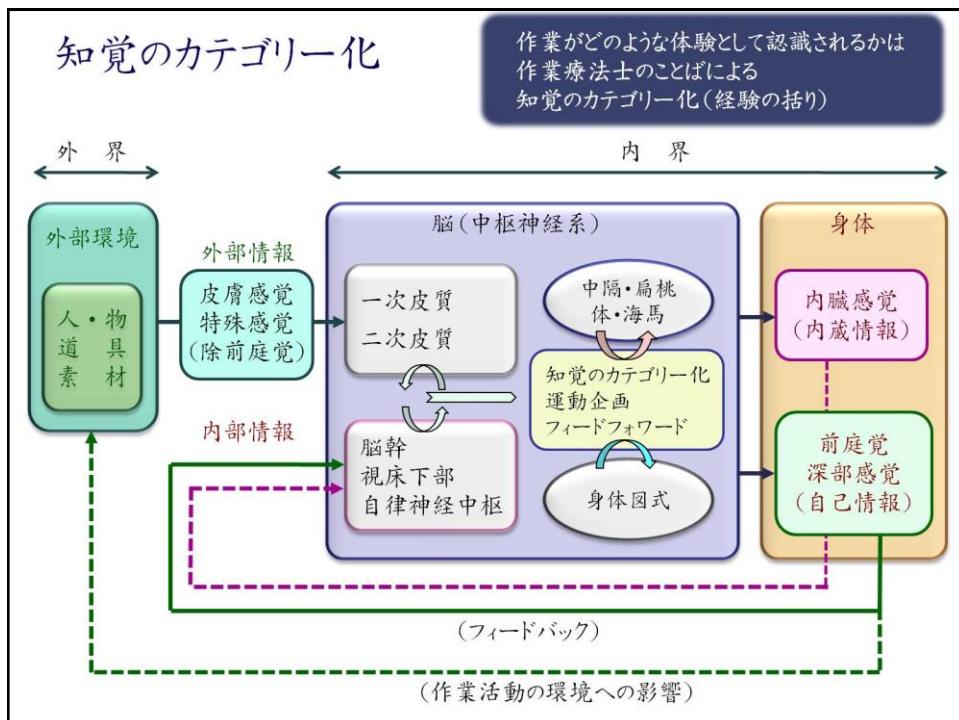
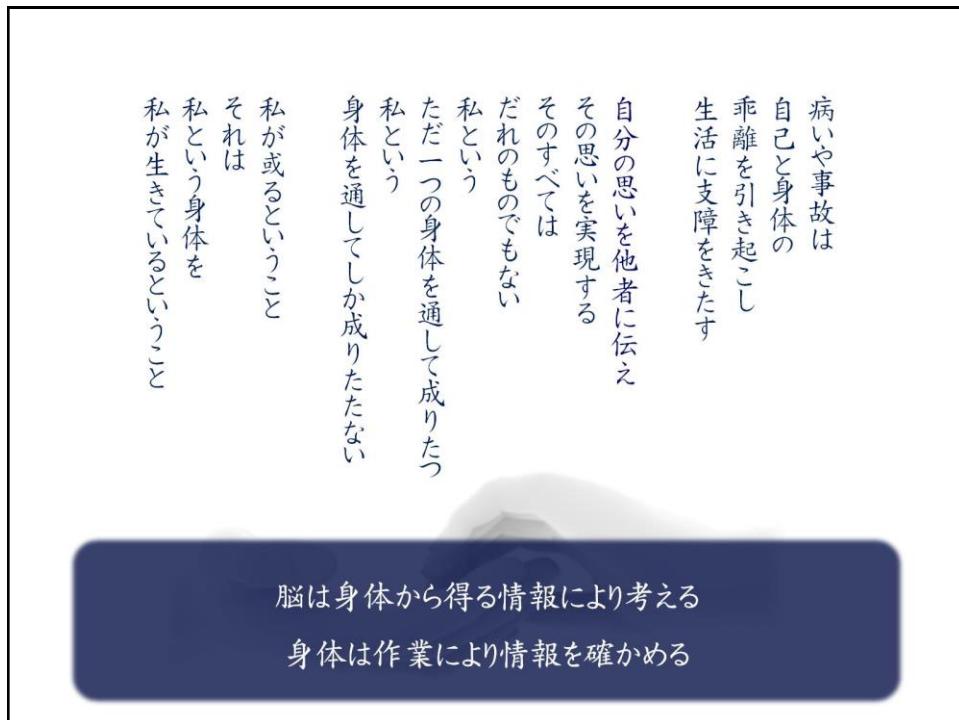


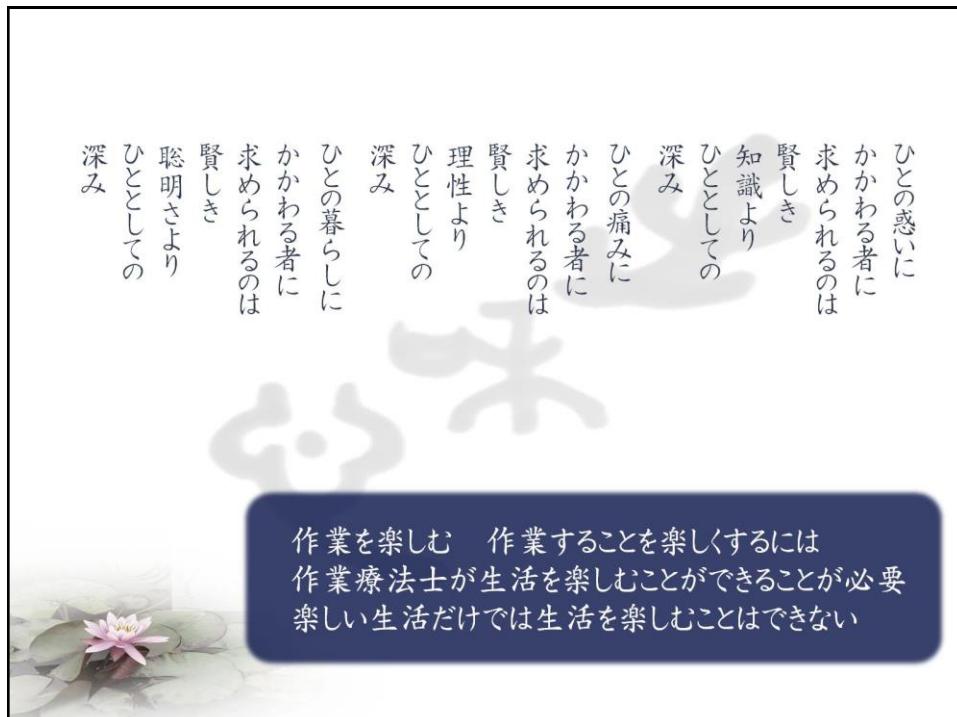
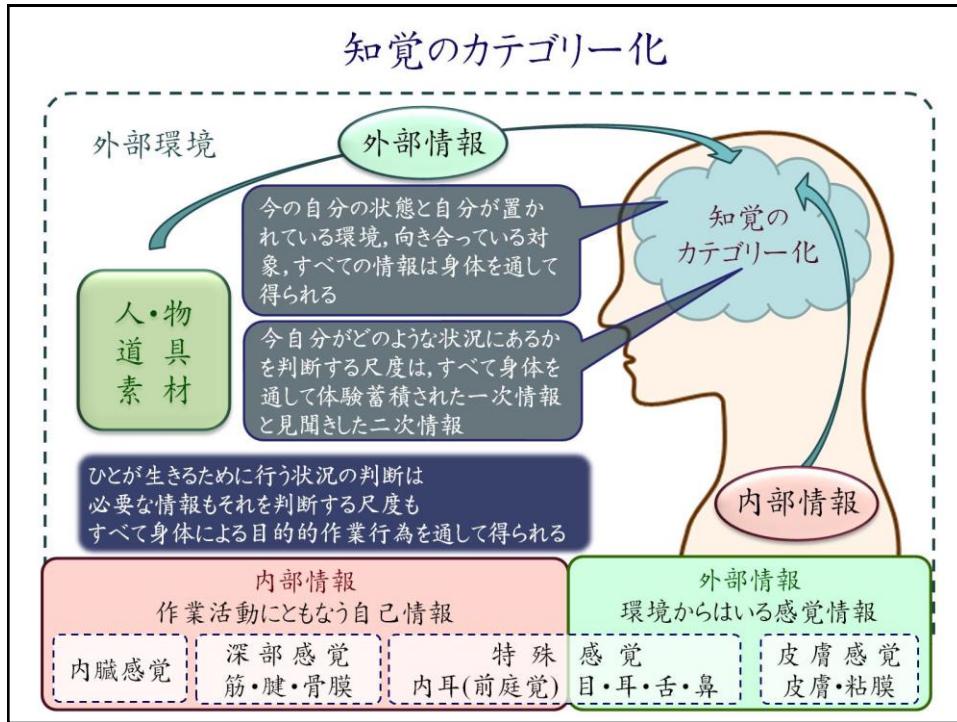
作業は
ことばを
意味あるものにし
腑に落とし
ことばは
作業を
意味あるものに括り
腑に落とす
ことばを
活かす作業と
作業を
活かすことば

作業療法士は
作業という薬とことばのメスを使う
Soul support as barefoot doctor



私たち一人ひとりは
ただ 一つの身体をもつて生まれ
ただ 一つの身体として或る
その身体を通して
世界と向き合い
世界を知り
私を知る
その身体を通して
私と世界との関係を知り
なすべきことを判断し
自分の思いを他者に伝え
その思いを実現する





意欲や主体性は

- 育てるものではありません
- 引き出すものでもありません



意欲や主体性は奪わないものです

たとえば「何もできない、でも何かしないと落ち着かない」



ピンポン球大の粘土の塊

「何も作らなくていいので、この粘土をできるだけ薄くおなじ厚さになるようにしてみましょう」

特定の脳機能課題

- 新しい知識や技術、作業遂行時に判断を要さない
- 手順が明確
- 適度な繰り返しとリズム



指先で粘土を摘むという単純な動作の繰り返し、粘土を薄くおなじ厚さにする(特定の脳機能課題)ための手指の屈伸にともなう深部覚、触覚からの感覚(身体の使用に伴う現実的感覚刺激)に意識が向けられます。



自分の身体から生じる現実的な感覚が脳にフィードバックされ、運動企画が見直され手指の動きが修正される。そのシンプルで感覚のフィードバックによる修正を繰り返すことだけが必要な脳機能課題が遂行されます。



ことばと作業により脳機能を糺す → 機能障害の軽減

「何も作らなくていいので、この粘土をできるだけ薄くおなじ厚さになるようにしてみましょう」という課題に、手指の屈伸にともなう深部覚、触覚からの感覚（身体の使用に伴う現実的感覚刺激）だけに意識が向けられます。単純ですが、常に感覚情報をフィードバックし運動企画を修正する繰り返し作業に脳が使われます。

作品を作るためではない作業の結果としてできたものを素焼きにし、釉をかけて焼く。

たとえば「何もする気がしない、したくない」



手で一握りできるくらいの粘土を手渡します



粘土の片方が握った親指と人差し指から2~3cm頭が出るようにします



ギューッと握ってもらいます



握った粘土の底の部分をトントンとたたいて据わりをよけます。そして、その粘土をゆっくりと回しながら正面を決め、正面が決まつたら、頭の部分をつまんだり指を押しつけて耳や鼻を作り、目や口を竹串で描きます。

このプロセスの中で、対象者の認知機能を含み回復状態をスクリーニングする、作業を介した機能評価とリハレディネス



何もする気がないと言って見ていた人が、いつの間にか粘土を握っていた。
そんな思わず手を出してみたくなる状況をつくるのも作業療法



Be good Do good

Do not do what you cannot do.
Do what you can do as it is.

[Signature]